

1 単元名

ひらがなの筆使い「にじ」

2 単元目標

- 平仮名の筆使いに関心を持ち、進んで書こうとしている。 （関心・意欲・態度）
- 平仮名の筆使いの良さあしを考えることができる。 （思考・判断）
- 平仮名の筆使いについて理解し、筆圧に気をつけて書くことができる。 （知識・理解・技能）
- 他の文字や硬筆でも平仮名の書き方に気をつけて書こうとする意識をもつことができる。 （書写の日常化）

3 指導上の立場

（1）単元について

本単元は、『にじ』を題材に、「曲がり」と「点」の筆使いの理解と習熟を図ることがねらいである。「曲がり」は、筆の軸を回さないことと穂先の通るところに注意をする必要がある。平仮名は、漢字と違って曲線的な筆使いであり、その点が難しい。無理に曲線を強調せずに、硬筆で書くときの字形を意識しながら書くことで、自然な運筆になるようにしていきたい。『に』では、穂先の動きを意識して、線と線がつながるような気持ちで書くこと、漢字の「はね」よりゆっくり丁寧に書くことで、その筆使いを習得させていきたい。『し』の「曲がり」では、軸を回さずゆっくり筆を運び、終筆は「はらい」で、そこから「濁点」につなげていく。そして、「点」にも「始筆」「送筆」「終筆」があることを確認し、筆使いに注意して書かせたい。

（2）児童の実態

本学級の児童（12名）は、3年生になって初めて毛筆学習が始まり、筆で書くことに対して興味をもって学習に取り組んでいる。これまでに、横画と縦画の筆使いで「始筆の穂先の向き」「送筆と終筆の筆使い」「穂先の通るところ」に注意して書くことを学習した。また、はらいの筆使いでは「筆圧」、おれとはねの筆使いでは、「筆を一度止めてからおれる」「一度筆を止めて穂先をそろえるようにゆっくりとはねる」ことを学習してきた。これらの学習を通して、少しずつではあるが毛筆の筆使いに慣れてきた。同時に、「始筆の穂先の向き」や「穂先の通るところ」「はらいやはねの筆圧」について評価する児童が増えてきており、始筆や終筆を意識して書こうとしていることがうかがえる。これまで、雑な文字を書いていた児童が、新出漢字の学習の時に「左右のはらい」や「はね」をきちんと意識して書く姿も見られるようになった。しかし、平仮名については、ゆっくり丁寧に書くことが苦手な児童が多い。本単元の学習で「ひらがなの筆使い」を学ぶことによって、平仮名の点画を正しく丁寧に書く習慣を身につけていきたい。

（3）研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成～自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習～』に迫るために次のような工夫をしていきたい。

- 主体的に学び、日常化の図れる工夫
 - ・試し書きと手本を比べることで、全体のめあてや個人の課題を進んで考えさせる。
- 基礎・基本を身に付けさせる工夫
 - ・合言葉で姿勢の確認を繰り返し行う。
 - ・穂先に朱墨をつけ、穂先の通る位置を示した練習用紙を使うことで穂先の通る位置を確認できるようにする。
- 自己の伸びを実感できる評価の工夫
 - ・自己評価では、上手く書けなくても意識して書けたら「○」を付けられるようにする。
 - ・相互評価では、試し書きと比べて良い所を見つけさせる。

4 単元計画（全2時間）

- 第1時 平仮名の筆使いに気をつけて書くことができる。（本時）
- 第2時 平仮名の筆使いに気をつけて字形を整えて書くことができる。

5 本時案（第1時）

目標	平仮名の筆使いを理解し、筆使いに気をつけながら書くことができる。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 試し書きをする。	○本時の学習文字は、平仮名で「にじ」と書くことであることを知らせる。 ○漢字や片仮名と違って平仮名は、丸みを帯びた文字であることを確認し、試し書きをさせる。	
2 本時のめあてを知る。	○教科書P. 26の拡大掲示物を示し、試し書きと比べて気づいたことを発表することで、平仮名の筆使いについて、確認する。 ○動画で筆使いを確認する。 『に』 ・始筆は左上から穂先を軽く入れる。 ・1画目から2画目、2画目から3画目へとつながるような気持ちで書く。 『じ』 ・「曲がり」の穂先の通る位置を確認し、軸を回さないようにしてゆっくりと筆を運び、最後は、払う。 ・「点」は、左上から穂先を入れて右下へ運ぶ。 ○間違った筆使いの文字を示すことで、筆使いのポイントを意識させる。  ひらがなの筆使いに気をつけて書こう。	○平仮名の筆使いを理解できたか。 (知)
3 練習をする。	○空書きで筆使いを再確認させる。 ○姿勢、紙を押さえること、肘を上げて筆を立てて書くことを確認し練習させる。 ○穂先の通る位置やポイントを示した籠書きの練習用紙を使うことで、筆使いに気をつけて練習できるようにする。 ○穂先に朱墨を付けて書かせることで、穂先の通る位置を意識して練習できるようにする。 ○机間指導で、よくできているところを称揚したり、筆使いについての助言をしたりする。	
4 まとめをする。	○筆使いや姿勢を確認し、まとめ書きをさせる。 ○数人の試し書きとまとめ書きを取り上げ、よくできたところや難しかったところを伝え合い、同じ自己評価について挙手で確認することで、個々の思いを全体で共有させる。	○穂先の通る位置を意識して書けたか。 (技)

共通のめあて

指導のポイントなど